

会議録（要点筆記）

会 議 名	令和3年度 第3回米原市社会教育委員会会議
開 催 日 時	令和4年3月25日（金）午後7時00分～午後8時05分
開 催 場 所	米原市役所 会議室3-A
出 席 者	出席者：大谷委員長、上田副委員長、谷口（嘉之）委員、富田委員、川崎委員、日置委員、田中委員、塚田委員、金澤委員 事務局：生涯学習課 梶田課長、平山補佐、川村主任、北村主事 欠席者：伊藤委員、谷口（絹代）委員、北澤委員
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代から<u>多世代</u>交流型のコミュニティ・スクールについて ・各学校運営協議会参加報告について ・次年度の社会教育委員としての取り組みについて
結 論 （決定した方針等）	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度上半期では、学校の活動視察を中心に取組を行い、下半期では、提言書の取りまとめに向けた会議を2回行います。 （最終回は取りまとめた提言を確認いただきます。）
協議経過・概要	<p>1 開 会</p> <p>※過半数以上の委員が出席のため、本会議の成立を報告 （出席委員全12人中9人）</p> <p>2 協議事項</p> <p>【テーマ：多世代交流型のコミュニティ・スクールについて】</p> <p>委員長：前期のテーマ「次世代育成型のコミュニティ・スクール」から「多世代交流型コミュニティ・スクール」をテーマにした取組のポイントについて上田副委員長に補足説明をお願いします。</p> <p>副委員長：次世代から多世代に変えた意図は、一般的に次世代と言うと若い世代と言うことになる。</p> <p>多世代と言うと、小さな子どもから、青年、大人、高齢者まで範囲の広い世代が対象になる。より広い世代に参加して欲しいとの思いで提案した。</p> <p>【各学校運営協議会参加報告について】</p> <p>委員長：各学校の運営協議会への参加について、コロナ禍であることもあり少人数での分散実施とした。</p> <p>春照小学校、山東小学校は、学校主体でコミュニティ・スクールを運営していると感じた。</p> <p>校長に運営協議会の議題はどう選定したのか確認したところ、学校評価から選定したとの回答であった。地域の意見を反映できれば、学校と共同体のコミュニティ・スクールになって来ると思う</p> <p>事務局（委員意見より）：2月14日に河南小学校と河南中学校は、合同で開催され、2校は共に地域の方とのつながりを大切にしている。</p>

地域と交流するための事業が必要と認識されている。コミュニティ・スクールについては、コロナ禍でアピールする場が少なかった。(ウォーキングが中止になった。)

子どもが卒業するとその親も含め学校との交流が途絶えてしまうため、新聞の取材を依頼するなど、もっと情報を出した方がよいとの意見があった。

委員：2月10日に米原中学校、2月21日に米原小学校へ訪問した。

米原中学校は、地域コーディネーターの方が熱心であり、勧められて事業に参加した。

葉牡丹をプランターに植え付け、地域の方に配布する活動、かまどベンチを使った、焼き芋づくり、「飛び出しぼうや」を地域の方と一緒に作成する事業に参加した。(市公式ウェブサイトに掲載)事業の参加者からは、広報まいばらなどに掲載して、活動内容を広く知って欲しいとの意見があった。

米原小学校は、校長、教頭が非常に熱心で、地域の方の熱意も感じられた。活動としては駅の東口にパネル展示を実施しているが、児童のやる気につながるので展示場所がもっと欲しいとの意見があった。

学校でのアンケートの活用について、今後の活動の指標となるためアンケート結果を検証する必要がある。

委員長：学校でのアンケートの話題が出たが、令和3年度が終了し、まとめ次第情報提供する。

事務局も米原小学校に訪問されているので意見を伺いたい。

事務局：行政の立場で学校の意見や質問等を聞くことができた。先ほどから課題とされている情報発信について、地域の方に発信するため学校外にスペースを作りたいとの話があった。

米原小学校は承水溝、駅の東口に学校が作ったポスターを掲示し情報発信していくほか、来年度に向けては市役所の3階と駅の自由通路が8月頃につながるため、自由通路も活用したいと、市に対する質問もあった。お互いに情報共有できたことは有意義であった。

市からは、学びあいステーションを情報発信の場として提案した。春照小学校、河南小学校も同様の課題が出ている多世代の方が集まる学びあいステーションの活用を検討いただきたい。

また、ALTの先生のふるさとであるニュージーランドの学校とオンラインで交流していた。この活動から、人とつながることが、楽しさ、学習の意欲につながると感じた。コロナ禍で中止となっ

たが、ふるさとウォークも地域の人とつながる重要な活動であり、様々な手法で地域とつながれるのではないか。

委員：米原小学校は、米原駅の掲示物のほか、学校に近い地域の方に発信するべきとの意見がある。駅に作品を掲示することで子どものモチベーションが上がっているため、駅の掲示も継続し、承水溝を「あいさつストリート」と銘打ち情報発信、地域交流の場として新たな事業の計画をしている。

先ほどから課題とされている、学校が主体でコミュニティ・スクールが活動している事について、事務局は学校が担っており、広報活動も学校が提案し地域にお願いする形になっている。地域の主体性については、今後の課題である。

参加者は、高齢の方が中心で、現役世代は参加が難しい点を、今後どう改善していくか学校運営協議会の中でも、コミュニティ・スクール立ち上げ時からの課題となっている。

委員：河南小中学校の学校運営協議会では、委員の方が熱心であった。小学校中学校が合同で実施しており、9年間かけて、地域で熱心に子育てを実施されていることが伝わった。

坂田小学校は、コロナ禍もあり、短時間での実施を意識され、(その時は)委員の発言も少なかった。

どちらの学校も地域に特化した取組を実施されようとしているが、先ほどから課題とされている、情報発信が問題になっている。保護者の中でも情報が認知されていないこともある。委員のメンバー(後継者)が拡充していかない。

坂田小学校は保護者が忙しく参加が難しい印象を受けた。

委員：大原小学校は11月に、ふるさとウォークの実施を企画し、地域の方との話し合いを進めていた。デルタ株の蔓延もあり、参加希望者が少なかったことから中止としたが、今年度の準備を来年度に引継ぎ、是非実施させたい。この事業の実施により地域が学校に係わる機運を高めていく。

学校運営協議会でもコミュニティ・スクールの機能を高めるよう話し合った。大原小学校は学校が主体とならなくても学校運営協議会の委員から活発な意見が出て会議が進む。しかし、事務局が学校内にあることもあり、ボランティア募集や出動のための準備等は学校が実施している。それでも、3年前と比較し、かなりの人数の地域の方が学習活動の手助けをしている。現在の活動を大切にし、さらにふるさとウォークで学校に地域が関わっていく雰囲気を作っていく。

委員長：各学校の活動が様々であるので、こうした報告を通じて、各学校の活動を見える化していきたい。

今後の活動について、何かご意見があれば伺いたい。

副委員長：地域と連携するのは行事の時だけではなく、普段からの継続的な関係性が重要と感じる。学校だけでは時間的にも労力的にも地域との関係を維持することは難しく、地域との関係維持には地域コーディネーターが果たす役割が重要になってくる。地域の人材バンク的なものが学区を越えて組織できるとよいのではないか。神奈川県和学校に関わっていた内容をみると、学校と地域の関係が別々ではなく、共同体（With）であるべきだと思う。

地域も学校から学べるような、お互い学びあえる関係が理想である。まだ発展途上であるため、情報発信が必要で、学校と地域の良い出会いをどう進めていくかが課題である。

委員長：委員の話のとおり、今後は地域と学校がお互いに学びあえる関係の構築が重要になってくるのではないか。

ボランティアの参加者が少ないという課題がある中、いかに地域の人にボランティア活動に参加してもらうか、その手法を考えなければならない。

【次年度の社会教育委員としての取組について】

事務局：大枠のイメージとして、令和4年度の目標は、社会教育のテーマを調査研究して提言書を作成するため、会議の実施を4回予定している。上半期では、もう少しコミュニティ・スクールを深く知るため、市内外問わず良い現場があれば、積極的に向いて、課題や良い点を導き出せればと思う。年度初めには各学校において計画が作成されるので、その情報も委員の方々へ迅速に発信していきたい。後半については、提言書の取りまとめのための会議を行う。

また、教育委員との意見交換の場を設け、提言書が有効活用されるようにしていきたい。

委員長：事務局の提案のとおり、前半は学校の活動視察、市外のコミュニティ・スクールも見に行けると良い。

後半は提言書を取りまとめて教育長に提出していきたい。

全4回の会議予定で進めていきたいと思うが、委員の皆様には同意いただけるか。

委員：異議なし

【その他について】

委員長：滋賀県社会連絡協議会の理事会が2月にあり、令和4年度の協議

